

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991100108		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホーム ラパス		
所在地	栃木県矢板市泉557-1		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 アスク		
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189		
訪問調査日	平成27年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域のボランティア(フラダンス・和太鼓など)を受け入れや地域の行事(公民館祭りに作品展・模擬店で食事など)隣接している中学校からご招待をいただきまして楽しいひと時を過ごしています。また、朝食は毎回手作りの食事を提供したり時々畑で収穫した野菜も献立に出すことで利用者様は、ご満悦の様子が、見られています。午後のレクリエーションでは、「脳トレーニング」と称して(ことわざ・四字熟語・しりとりにトランプなど)に皆さまが、楽しく考えながら参加しています。隣接している小規模多機能型居宅介護施設これびと恒例の合同行事(秋祭り・地域住民の和太鼓演奏及びふれあい)を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(優れている点)開設してから4年が経過したが、その間の事業所の取り組みにより、たくさんのボランティアグループや保育園児等が訪れて一緒に楽しい時を過ごしたり、事業所の秋まつりに近隣住民が参加するなど、地域交流が盛んに行われるようになった。また、食事はゆっくりと入居者のペースで行われ、日中入居者間や職員との会話も多く笑い声が聞かれるなど、「ゆっくり・一緒に・楽しみながら」という理念の実践を図るべく、職員は明るく丁寧な関わりを心掛けていることが窺える。行事等もマンネリにならないよう、入居者の意向を汲み入れながら工夫して企画していて、入居者が誕生日に外食に出かけることも今年度から試みている。職員研修として、事業所内研修会を毎月行っているほか、法人としての研修体制も充実していて、職員の資質向上に力を入れている点は評価できる。(工夫点)地域住民との日常的な交流や行事等以外の外出が、散歩を含めてあまり行われていない状況にあるので、今後できるだけ実施するための検討が期待される。また、重度化・終末期の対応についての事業所の方針についても、継続して検討していくことが望まれる。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」の理念を常に頭に置き個々が、普通の生活ができるように寄り添いながら自分で出来ることは実施しています。	「入居者にとっては、家と同じ生活の場である。」という考えから、理念を壁面等に掲示していない。職員は、定例会議や事業所内研修会等の機会に、理念に基づいた運営や日常的ケアができていないか確認をしている。食事はそれぞれに応じてゆっくりしたペースであり、入居者と職員が笑い声をあげて楽しそうに会話している様子などからも、職員が理念の実践に努めていることが窺える。	法人の全ての事業所は、同じ理念のもとに運営されているが、各地域の特性を反映した事業所独自の理念を、職員全員で作りあげることにも取り組むことが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの定期的な来訪及び隣接する事業所こもれびと合同行事を楽しんだり地域公民館の作品展に出展して見学に出掛けたり模擬店で食事をしています。中学校から運動会の招待を受けて見学しています。	ボランティアとして、フラダンス・大正琴・手品・踊り・傾聴等のグループや保育園などが定期的に訪れていて、入居者も来てくれるのを楽しみにしている。入居者の作った作品を地元公民館作品展に出展して見に行ったり、中学校の運動会に招かれたり、事業所の秋まつりに地域の人があるなど、地域交流が盛んに行われている。	日常生活の中での入居者と近隣住民の交流の機会が少ない状況が見受けられるので、今後はそうした取り組みにも力を入れていただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族の方々及び地域の方々に認知症が、どのようなものなのか知っていただく場を設けていきたいと思えます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において民生委員や地域住民の方の意見を伺い、公民館活動や地域の祭りなどの参加を継続しています。	併設の小規模多機能型事業所と合同で、年6回運営推進会議が開催され、区長・民生委員・利用者家族・市担当職員・地域包括支援センター職員等が出席している。運営状況や入居者の様子を伝えるとともに、出席者から出された情報・意見・要望等について協議し、その後の運営に反映するようにしている。会議資料として行事の際の写真を添付していて、出席者には好評である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	矢板市介護サービス事業所連絡協議会が主催の勉強会に出席したりグループホーム部会に出席して日頃のサービスで悩んでいることを情報交換しています。	運営推進会議には、ほとんど毎回市担当職員が出席していて、介護に関する情報や運営やケアに対するアドバイスをもらったりしている。市の介護サービス事業所連絡協議会の勉強会やグループホーム部会には、必ず職員が出席して情報収集や意見交換を行い、そうした機会を通して市担当者との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例が生じた場合は、ご家族に実情を説明したうえで職員間で情報を共有しながら対応を考えていきます。	法人として「身体拘束禁止に関するマニュアル」が作成されており、職員研修や定例会議等を通して職員は学習し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。職員の入居者に対する関わり方は丁寧で、声かけもできるだけ側で行い、行動抑制的な言葉のないように、職員間で確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期の勉強会・定例会議などで話し合いを持ち常に虐待の防止に努め利用者様への些細な言葉掛けにも注意をして時には、交代しながら対応しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で外部講師を招いての研修を実施して理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する場合は、施設長・管理者・ケアマネジャーから具体的に説明し疑問や不安点について回答し十分な理解と納得のうえ契約をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族及び利用者様の要望や苦情がある場合は、職員間で話し合いを持ち繰り返さないように管理者・ケアマネジャーが、中心となり報連相して改善に努めています。	入居者からは、食事のことや外出希望等の意見が出され、入居者と職員で相談して行事食を決めたり、職員配置を工夫して外出や外食の機会を設けるなど、できるだけ希望や意向に沿うよう努めている。家族からは、面会・招待行事・電話連絡等の際に意見を聞き出すような関わり方をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1の定例会議には、積極的に参加して意見交換・情報交換をして改善の方向に努めています。	毎月定例会議を開き、行事・反省・運営及びケア改善・入居者の状況等について話し合っている。職員からは意見や改善提案・要望等がたくさん出され、議論を経て会議結果をその後の運営に反映している。最近の提案を受けて、入浴時の介助補助器具を導入したが、使い勝手について賛否両論あり、入居者の感想なども参考に現在検討を重ねているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長・管理者が、適時に個人面談を実施して各職員の現況把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者講習や矢板市介護サービス事業所連絡協議会で認知症に対する講演会や勉強会を通して情報交換をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	矢板市内のグループホーム部会が、中心とした活動に参加して情報交換しながらサービスの質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談しやすい雰囲気と解りやすい言葉で要望の聞き取りをして信頼関係を築くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の家族との面談時の聞き取りで一番困っている事を中心にご家族が言い易い雰囲気作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの聞き取りを中心にニーズを把握し本人が、気持ち良く過ごせる方法を提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の個々の出来ること出来ない事を把握し共に生活していく中でお互いに助け合いながら良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や通院で来所した時にご家族に気持ち良く安心して頂けるように最近の様子などを中心に話したりご家族からの意見に耳を傾けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用以前から馴染みの知人の面会や地域行事に参加した際にお逢いした時は、元気で過ごしていると伝えています。	面会は家族や親戚の方が多いが、たまに入居者が以前住んでいた時の近所の方達が訪ねてきて歓談していくことがある。事業所の秋まつりには近隣住民を招待しているが、その際に知人が来て楽しそうに一緒に話しをしていた入居者がいた。家族が迎えに来て行きつけの美容室に通う人がいるほか、入居者から墓参りや以前の家を見に行きたいという希望があった場合は、家族に連絡して希望が実現するように取り計らっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や行動を把握して皆さまが穏やかに過ごせるよう適宜席替えを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された場合には、面会を通じてご家族と今後についてなどの情報交換をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとり一人の思いを把握し本人のしたい生活に少しでも近づけるように職員と共に検討しています。	自分の希望や意向を職員にはっきり伝えることができる入居者がほとんどなので、職員は生活の中で機会を捉えて意向や希望を聞き取り、職員間で工夫をして出来るだけ実現できるよう取り組んでいる。自分からあまり話しをしない方の場合は、興味を持っている話題を向けて、そうした会話の中から意向等を聞きとったり、表情や態度等から望んでいることを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症になっても過去の記憶が、ほとんどの利用者様に残っているのでご家族や利用者様と話し合いをしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の挨拶をしながら表情や言動に気配りしながら体調の変化を見ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成後のモニタリングを職員と共に定期的な介護計画の見直しを行っています。	ケアマネージャーは、できるだけ生活場面に入り込むようにして、入居者一人一人の生活状況を的確に把握するよう努めている。3か月毎にモニタリングをしていて、居室担当職員からも意見を求め、定例会議でも職員間で意見交換を行い、本人や家族の意向等を聞いたうえで、サービス担当者会議を経て介護計画の作成及び見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録を読んだり実際にフロアに入り介護職員と話し合ったりしながら情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設外でのレクリエーションや畑作り・花壇の手入れなどを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民のフラダンスや踊り・手品ハーモニカ演奏・大正琴・ドジョウすくい等の方々に普段の日や行事に来ていただき楽しい時間を過ごしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は、基本的に家族にお願いしていますが状態が、大きく変わった方は受診にケアマネージャーが同行して現状を伝えています。	かかりつけ医の受診や予防接種を受ける場合は、基本的に家族が付き添いをしていて、その際には入居者の現在の状態や日常生活状況について書かれたメモを持参して、医師等に情報を伝えている。緊急時や家族が付き添えない場合は、ケアマネージャーが受診に同行している。家族からの受診の報告や服薬に関しては、朝の申し送り・連絡ノートの閲覧・定例会議での報告等により、職員間で確認して正確な情報を共有するよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業所(こもれび)の看護職と連携して利用者様の状態を看ていただきアドバイスを受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は、ケアマネージャーや管理者が中心となり速やかに病院を訪問して状況を担当看護師などから確認して退院時も病院でカンファレンスを含めた関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の進行や身体の状態が重くなった時に備え特養や老健等の説明や申し込みをケアマネジャーが中心となりご家族と話し合いをしています。	入居者と家族に対しては、入居時に重度化や終末期における事業所の対応についての方針を説明して理解を求めている。家族からの要望があった場合は、特養ホームや老健施設などの利用について、ケアマネジャーが説明している。現在のところ医療連携の面で課題があるが、重度化や終末期の対応についての研修会や勉強会を行いたいと考えている。現在往診の医師の確保について取り組んでいるところである。	往診の医師の確保を手始めに、重度化や終末期の対応に関する現在の事業所方針について、見直しを含めた検討を重ねていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを解りやすい場所に掲示して定例会議や実際に連絡網を活用して模擬伝言を伝えて再確認をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年2回)に消防訓練を実施(昼間・夜間想定)して消防署から指導を受けています。緊急連絡網も解りやすい場所に掲示してあり非常時に持ち出す書類も個々に把握しています。	年2回昼間と夜間想定での消防訓練を行っている。消防署員からのアドバイスを受けることで、職員は落ち着いて入居者への声かけや誘導もスムーズに出来るようになってきている。今のところ1名だけであるが、地域住民が訓練に参加していて、職員と一緒に誘導等も協力してもらっている。緊急対応マニュアルが整備され、緊急連絡網も職員の見やすい所に掲示されている。	現在の災害時の備蓄品が質量ともに十分であるかどうか点検したうえで、備蓄品のリスト化、管理状況、活用方法等について職員間で検討することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライドを重んじ名字で言葉掛けをしています。同姓の方には、下の名前前で呼んでいます。排泄時は、そっと近くで伝えたり別の言葉で伝えたりして気持ちをいつも平常心を保ち言葉を掛けています。	トイレ誘導の声かけは入居者の耳もとで行い、日常の会話も、入居者一人ひとりの身体状況や性格等に配慮して、その人に合った対応を心掛けています。入居者の発する言葉や行動に変化が見られる時には、一人の職員だけでなく何人かの職員が関わって、見守りながら本人の気持ちが落ち着くのを待つようにしている。定例会議でも、入居者への言葉かけに注意し、入居者の気持ちに沿った援助をするよう話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との日々の会話や表情そして行動などを通じて本人の思いをくみ取れるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様ひとり1人を理解して個々の行動言動は、様々なので本人に合った生活ができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた衣類や汚れてしまった衣類の交換など本人に言葉掛けで対応して起床時には、整髪を本人のブラシを渡しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を使用したり季節を感じていただけるように工夫しながら朝食は手作りで対応しています。	朝食とおやつは職員が手作りをしており、昼食と夕食の副食は、近所のお店や配食業者から調達している。時には、事業所内の畑の野菜を使用したり、りんご狩りでのりんごをおやつに使ったりして、季節感を出すような工夫も行っている。入居者との日頃の会話から好みの物を知り、行事食や日常の献立の参考にしている。食事の際の席は入居者の意向を受けて決めていて、入居者間や職員との会話も多く、ゆったりとした雰囲気の中で食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床時に朝イチの緑茶を飲んでいただき毎食ごとのほうじ茶や嗜好に合わせた飲物を飲んでいただき水分摂取量を確認しており少なめの方には勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の歯磨きや口漱ぎを実施しています。苦手な方には歯磨きの方法などを言葉かけしながら対応しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	異性介護の時の気配りをしながら個々の排泄パターン把握しながらも時間を見て言葉掛けをしています。排便確認は、本人に尋ねたり退室後に何気なく訪室しています。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで時間を見てトイレに誘導したり、入居者の様子や行動から職員が察知してトイレに誘導するなど、臨機応変に対応している。排泄が自立している場合でも、様子を見て職員がサポートしたり、介助の必要な人にもさりげなく気配りや介助を行い、スムーズにトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後に毎回ヤクルトを飲んでいきます。副食の野菜(特に根菜もの)を出したりおやつにヨーグルトを出しています。排便が暫くない方には下剤を服用して様子を見ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々が週3回午後に入れるよう計画しています。季節に応じた浴槽(菖蒲湯・ゆず湯など)にしたり入浴剤を入れています。入浴時間も個々に合わせながら対応しています。	職員一人の介助による入浴がほとんどであるが、入居者によっては職員二人で対応する必要もあるため、最近介助補助器具を導入し、事故防止とともに入居者の不安解消と職員の負担軽減を図っているところである。脱衣所には職員が手作りした綺麗な引き出し付きの箱があり、そこに入居者一人ひとりの塗り薬や毛髪ブラシが分けて納められている。入居者の意向や季節の変化を考慮して、随時入浴剤を入れ、入居者にお風呂の時間を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて室温調節や加湿器や室内灯を微妙にしたり夜勤者の靴音の調節しながら休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬を渡す前に袋に書いてある名前・日付・服用時間を読み上げてから薬を渡して服用を確認してから離席しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑に出掛け収穫の様子を見たり新聞折りを手伝っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じた外出行事(花見・紅葉狩りなど)を計画したり天気の良い日に周辺を散歩したり本人の誕生日に外出に掛かっています。	季節毎の行事を企画し、花見・紅葉狩り・りんご狩り等に出かけて、その際に外食する機会なども取り入れている。今年度から、入居者の誕生日に希望するお店に外食に出かけることを始めてみたが、自分一人だけの祝いに戸惑う方もいるため、従来からの事業所での全員参加による誕生会のほうがいいのかどうか検討中である。日常的な散歩や事業所の畑での草取りをする方もいるが、体調等のこともあって戸外に出る入居者が年々少なくなっているのが現状である。	入居者の意向や体調・天候等を考慮しながら、少しの時間でもいいので事業所の外に出る機会を増やしていく工夫をしていただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様からお小遣いを預かり外出時や散髪など必要な時に支払いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通院のお知らせや近況の書いてある手紙や家族と電話で話したい時には、掛けて話しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の様子を写した写真の横に職員のアレンジしたコメントを記入して利用者様の為に廊下に掲示して思い出話をしています。また、季節に応じたカレンダー作成もしています。夜間は居室内を薄暗く電気を点けたり廊下の電気を点けて安全確保をしています。	建物は、天井も高く明るい空間が確保されていて、木のぬくもりが感じられる。テーブルの位置も程よい間隔で置かれゆったりしている。壁には季節のカレンダーやちぎり絵などの作品、行事の写真等が貼られている。入居者は、テーブルで作品作りをしたり、洗濯物たたみをするなど、思い思いに好きな様に過ごしている。広めのウッドデッキを利用して、ボールゲームをしたり、設置されているテーブルや椅子を利用して、皆でお茶やおしゃべりを楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の過ごしたい場所でゆっくり穏やかに過ごして頂いています。利用者様の居室で昼寝をしたり雑誌を読んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置を家族と本人で決めていただいたり家族写真や誕生会の色紙などを居室に飾ったりしています。時々ダンス整理を本人が混乱しないように衣類別に明示したりしています。	入居者の部屋の扉には各人の名前が大きく貼られていて、間違えることがないようにしている。部屋の家具の配置は、本人や家族と相談して決めている。壁に行事でもらった賞状や毎月のカレンダー、ぬり絵等の作品を貼っている部屋もある。入居者が入浴時の着替えを持っていく際に戸惑うことのないように、職員が入居者と一緒にダンスをの引き出しの中を整理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも移動可能なように段差も無く広い作りとなっている為に自立した生活が支援できるように努めています。		